

2-1 人道のまちづくりの推進

施策の基本方針

他者の価値観を認め、尊重することが人道精神の根幹であることから、本町に所縁のある杉原千畝氏の功績や思想にふれる学びを通して、他者を思いやる心を培い、共生社会の形成・発展につなげます。

現状と課題

- 第2次世界大戦中、数千人もの尊い命を救った元外交官・杉原千畝氏の精神を受け継ぎ、氏の命日である7月31日を含んだ一週間を「杉原ウィーク」と称して、短歌大会をはじめとする平和を願うさまざまなイベントの開催や杉原千畝記念館での企画展開催など、杉原千畝氏の顕彰と町民の人道精神を高める取り組みを進めています。
- 学校教育において、各校に「人道の部屋」を設けて学習成果を展示するとともに、短歌大会への参加、人道創作劇の公演、町内中学生の作詞・作曲の人道の歌の制作、児童生徒会サミットなどを通じて、平和の大切さ、命の尊さ、思いやりの心を育てています。
- このような人道教育で学んだことを児童・生徒が考え、演じることで、当時の杉原千畝氏の状況や想いを感じることができるとともに、成果の発表を通じて町民に「思いやりの心の大切さ」を伝える機会となり、人道のまちづくりにつながっています。
- 単に杉原千畝という人物や歴史についての知識を習得するだけでなく、人道精神についてのより深い学びや、人権について自ら考える習慣を身につけることが必要であり、そのために、すべての年代の町民が学ぶ機会を設け、思いやりのまちづくりを根付かせることが重要です。

目標指標

基本成果指標	単位	現状値		目標値	
		年度	基準値	R10 (2028)	R14 (2032)
杉原千畝記念短歌大会の応募総数	人	R5	2,963	3,200	3,400
人が困っている時には進んで助けると答えている児童(小6)生徒(中3)の割合(全国学力学習状況調査)	%	R6	児童 98.8 生徒 93.2	児童 90.0 生徒 90.0	児童 90.0 生徒 90.0
いじめはどんなことがあっても許されないと答えている児童(小6)生徒(中3)の割合(全国学力学習状況調査)	%	R6	児童 96.3 生徒 98.6	児童 90.0 生徒 90.0	児童 90.0 生徒 90.0

施策の方針

① 人道精神の普及・啓発

- 杉原千畝氏とゆかりのある国や地域と友好交流を図り、国内外へ杉原千畝氏の人道精神の取り組みの普及を図ります。
- 他者と自己との違いを認め、尊重する精神について、すべての年代の町民が学ぶ機会として、「杉原ウィーク」を継続開催するとともに安心して生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。
- 杉原千畝記念短歌大会の充実を図り、「平和」「命」「思いやり」について考えるきっかけをつくり、本町から世界へ平和の願いを発信する事業を推進します。
- 杉原千畝記念館の展示の充実や関連イベントの開催とともに、記念館や人道の丘の魅力を国内外に発信して、より多くの人に対して人道のまちについての周知を図ります。
- 杉原千畝氏の人道精神を後世に伝え、人道的行為を顕彰する活動を続けるため、杉原千畝記念基金やふるさと応援寄附金を通じた支援の充実を図ります。

② 人道教育の推進

P86 戦略2-(1)

- 全国の学校で行われている「人権教育」を本町では杉原千畝氏の功績と合わせて「人道教育」とし、各小中学校が特色ある教育活動を実践しています。人道に関わる各校の教育活動が充実・深化するよう、各種の支援をするとともに、実践の場として町外を含めた学校外の関係者の方々との交流を図ります。
- 人道教育は、郷土愛を育むとともに、困難に立ち向かう際、自分自身が他者と協力して解決を図るうえで必要な技能を身につけることができる教育効果が期待できることから継続して人道教育に取り組みます。
- 人道教育を通じて、自らの大切さや人を尊重する意識を育み、いじめの防止につなげていきます。
- 「人道教育」の根本は、人が互いを理解し、思いあう心を持つこと、自ら行動できることであることから、学校教育と連携し、演劇ワークショップや立志の集いなど小中学生が自他の心の内を深く広く見つめる機会を提供します。また、小中学生による「児童生徒会サミット」などを通じて児童生徒が主体的に考え、提案できるよう、関係者の連携を図ります。

③ 人権・男女共同参画・多文化共生

- 誰もが平等で人権が尊重され、思いやりや支え合いの精神を育み、安心して生き生きと暮らせるまちづくりを進めます。

2-2 学校教育の充実

施策の基本方針

「夢・志」や「人道」をベースにしつつ、たくましく、あたたかく、しなやかに未来を生きぬく「未来を拓く力」を有する子どもを育てます。

現状と課題

- 「夢・志」や「人道」をキーワードに、特色のある教育を推進してきましたが、この蓄積を基に、さらに未来を生き抜く力を育む教育の充実を図る必要があります。
- 杉原千畝氏の人道精神を継承するための人道教育、中学生の海外派遣や海外との交流授業ならびに外国語指導助手の配置による英語教育などによるグローバル教育、演劇ワークショップの開催などによるコミュニケーション教育など、本町の教育の質を高めるため、特色のある教育を今後も推進する必要があります。
- 全小中学校にタブレット端末を配布するとともに、教職員向けの研修の実施により教職員の指導力もレベルアップし、ICTを積極的に活用しています。しかし、学校・学年でアプリの活用状況に差が生じていることから、さらに積極的に活用をしていく必要があります。
- 県立八百津高等学校と八百津中学校・八百津東部中学校は、県教育委員会の連携型中高一貫教育校として位置づけられ、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育てるキャリア教育や連携型入試の取り組み、相互理解などの推進、交流授業の充実などが取り組まれています。
- インクルーシブ教育が注目されており、誰もが安心して学ぶことができる場を提供するために、支援員・相談員の配置を充実する必要があります。
- 休日部活動の地域移行事業は、中学生を地域で育てていくために「八百津町地域クラブ」で実施することにしており、地域との連携が今後ますます重要になります。
- 学校施設の老朽化や特別支援教室など新たな教室の設置の必要性から、学校施設の維持改修費用の増加が予想されます。一方、児童生徒数は年々減少しているため、少人数により活動が制約される問題が危惧されます。そのため、子どもたちにとってふさわしい教育環境を実現するために、「八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会」の答申を受け、今後の方向性を検討しています。

目標指標

基本成果指標	単位	現状値		目標値	
		年度	基準値	R10 (2028)	R14 (2032)
教育相談員相談対応件数	件	R5	291	300	300
学校に行くのは楽しいと思っている児童(小6)生徒(中3)の割合(全国学力学習状況調査)	%	R6	児童 85.4 生徒 75.6	児童 90.0 生徒 90.0	児童 90.0 生徒 90.0
先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思っている児童(小6)生徒(中3)の割合(全国学力学習状況調査)	%	R6	児童 98.7 生徒 91.3	児童 90.0 生徒 90.0	児童 90.0 生徒 90.0

将来の夢や目標を持っている児童（小6）生徒（中3）の割合（全国学力学習状況調査）	%	R6	児童 90.2 生徒 62.2	児童 90.0 生徒 90.0	児童 90.0 生徒 90.0
児童生徒がタブレット端末を週4回以上活用する学校数	校	R6	3	5	6

施策の方針

① きめ細かな教育内容の充実

P86 戦略2-(1)

- 杉原千畝氏の人道精神を継承するための人道教育を引き続き推進するとともに、英語教育、コミュニケーション教育、情報教育など、「未来を拓く力」を育むための教育の充実を図ります。また、中学生の海外派遣事業を実施し、国際感覚を有する人材を育成します。
- 少人数の特色を活かして個別最適な学びと基礎学力の定着を図るために、きめ細かい指導体制の充実を図ります。
- 社会で通用する情報活用能力を高めるために、タブレット端末やアプリの積極的な活用を進めます。そのために、子ども向けの情報リテラシー研修や教員向けのICT端末活用研修の充実を図ります。
- 特別支援教育については、教育相談員、教育振興指導員、割愛指導員が主となって、個別指導計画に基づき、個々にあった指導を推進します。
- 県立八百津高校との中高一貫教育の推進、さらに幼児期から一貫した教育の充実のための保小中高連携の強化を図るとともに、児童・生徒や保護者、町内外に取り組み状況を発信します。

② 学校と地域との連携強化

P87 戦略2-(3)

- 中学校の休日部活動地域移行の受け皿となる「八百津町地域クラブ」の体制強化を支援し、休日部活動地域移行事業の円滑な推進を図ります。
- 地域全体で子どもたちの成長を支えるために、「学校運営協議会」で学校の目標やビジョンを地域で共有するとともに、幅広い町民や企業・団体の参画による地域学校協働活動を推進します。そのために、「学校・家庭・地域連携推進員」の配置を進めます。
- 地域課題をテーマとした高校生の活動を支援するなど、高校との連携を強化し、高校の魅力づくりを促進します。
- 「いのち」を育む食育の指導と学校給食における地産地消を推進します。

③ 最適な教育環境の整備

- 八百津町学校施設長寿命化計画に基づき、児童生徒が安全・安心して学校生活を送れるよう、老朽化した施設の改修や設備の更新などを計画的に推進します。
- 学校タブレット端末導入、校務支援システム、ネットワーク機器の更新など、学校におけるICT環境の充実を推進します。
- 「八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会」の答申を踏まえて、小中学校の再編方針を検討します。

2-3 生涯学習の推進

施策の基本方針

豊かな人生を送るために重要になる、生涯を通じて学ぶことができる多様な学習機会を充実します。

現状と課題

- 公民館講座を中央公民館と各地区出張所施設にて開催していますが、講座の開催は平日の日中がほとんどのため、参加者の年代が中高年に偏っているのが現状となっています。そのため、全体的に参加者の人数も減少傾向にあることから、より町民の関心をひくような講座企画をすることが課題となっています。
- 受講生の募集は、みのかも定住自立圏応援生涯学習情報誌「学びのとびら」で案内していますが、情報誌の内容の伝達方法を工夫する必要があります。
- 錦津コミュニティセンター以外の公民館・センターの老朽化が進んでいますが、厳しい財政状況などを理由に、その多くが不具合に応じて修理する事後保全となっています。今後、安全・安心に関わる修繕については、最優先で対応する一方、計画的な施設の再編を検討する必要があります。
- 青少年の健全育成に向けて「八百津町青少年育成町民会議」を中心に、青少年と地域の人や親子の交流活動、啓発・見守り活動を実施しており、今後も家庭や学校、地域と連携・協力して、活動の場を広げる必要があります。
- インターネット社会の広がりにより、青少年のトラブルも多くなり、社会問題となっています。そのため、インターネットやSNSの適切な利用の啓発をより一層進める必要があります。

目標指標

基本成果指標	単位	現状値		目標値	
		年度	基準値	R10 (2028)	R14 (2032)
講座参加者数	人	R5	219	230	240
中央公民館図書室利用者数	人	R5	3,777	3,850	3,900
中央公民館図書室貸出し冊数	冊	R5	8,469	8,750	9,000

施策の方針

① 生涯学習の充実

- 生涯を通じて学ぶことができるように、子どもから高齢者までそれぞれの生活様式やニーズ、関心などに応じた講座の充実を図り、多様な世代の学習活動を支援します。
- 公民館図書室・図書コーナーの充実や講演会の開催などを通じて、学習機会の提供を図ります。
- 生涯学習に関する講座や催事の情報を多くの町民に周知するために、多様な媒体の活用による効果的な情報提供を推進します。

② 生涯学習施設の充実

- 町民一人ひとりが自由に学べる環境を充実させるために、公民館・センターなどの施設の効率的な維持管理・修繕・長寿命化の方法などを検討します。老朽化が進む町内の公共施設について、学校施設など他の公共施設の再編整備に合わせ、公民館・センターなどとの複合化などを計画的に進めます。
- これまでと同様に事後保全を基本としますが、中央公民館、錦津コミュニティセンターについては、予防保全型に切り替え、建物の良好な状態を維持します。

③ 青少年の健全育成

- 青少年育成町民会議の事業を通して、親と子、地域が一体となった活動の継続・発展を支援します。
- 20歳という節目に大人になるという自覚を意識させることを目的とした式典「二十歳の集い」を引き続き開催します。
- インターネットの利用が青少年の健全な成長の妨げとならないように、インターネット上の情報の取捨選択や社会的に逸脱した思想の回避、犯罪への加担の回避など、インターネットやSNSを利用するうえで必要な基本的な知識について、学年・段階に応じた啓発・周知を図ります。

2-4 生涯スポーツの推進

施策の基本方針

子どもから高齢者まで、多様な町民が参加するスポーツ活動を活発に展開し、健康づくりや体力向上、親睦や交流が図られる、豊かな地域社会を形成します。

現状と課題

- 体育協会、総合型地域スポーツクラブ「チャレンジクラブ802」、スポーツ少年団などの主催で各種スポーツ大会、スポーツ教室が開催されています。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者数が減少しましたが、スポーツに対する町民の関心は高く、スポーツを通じて、体力づくりや健康維持ができるような環境をつくるため、スポーツ大会やスポーツイベントの開催など、多様な町民が気軽に参加できる機会を増やす必要があります。
- B & G海洋センター艇庫がある蘇水公園では、初心者でも安心して多様なウォータースポーツを楽しむことができることから、スポーツを行うきっかけづくりとして今後も活用していく必要があります。
- 蘇水公園は、人工芝の多目的グラウンド・野球場・テニスコートを備えた総合公園であり、さまざまな大会やイベントの開催が可能であることから、スポーツ振興のための有効活用が必要です。
- 現在、八百津町体育協会および地区体育協会、チャレンジクラブ802、スポーツ推進委員などが活動しており、スポーツ活動を推進するためには、こうした組織の活性化を図る必要があります。
- 多くのスポーツ施設において老朽化が進んでおり、厳しい財政状況のなかで、維持管理を進める必要があります。その一方で、スポーツへの関心はあるものの利用者数は減少傾向にあることや施設によって利用率が偏っていることから、優先順位を検討して計画的な改修・維持管理を進める必要があります。

目標指標

基本成果指標	単位	現状値		目標値	
		年度	基準値	R10 (2028)	R14 (2032)
スポーツ施設年間利用者数	人	R5	67,065	67,400	67,800
スポーツ指導員の研修参加者数	人	R5	36	40	45
B & G海洋センター艇庫利用団体数	団体	R5	18	25	30

施策の方針

① スポーツ活動の推進

P85 戦略1-(2)

- スポーツ団体と連携して多くの町民が関心を持つようなスポーツイベントを企画・開催し、スポーツ活動に参加するきっかけづくりを進めます。
- 小中学生を含む若年層の運動の習慣化への支援はもとより、運動習慣が継続しにくい30代以上の年代が気軽に運動に取り組める催しや教室を開催し、積極的な周知を図りより多くの町民が参加する機会を提供します。
- 蘇水公園を活用して各種スポーツ大会やスポーツイベントの開催誘致を進めるとともに、学校や各種団体と連携して艇庫の利活用を進め、さまざまなかたちでスポーツに親しむ機会を創出します。

② スポーツ組織の活動促進

- 八百津町体育協会および地区体育協会、総合型地域スポーツクラブ「チャレンジクラブ802」など、スポーツ組織による活動を支援するとともに、組織間の連携を促します。
- 幅広い町民のスポーツ活動の促進を図るために、B&G海洋センターの指導者やスポーツ推進委員の育成と活動の促進を図ります。
- 関係団体と連携して、中学校の部活動地域移行の受け皿となる「八百津町地域クラブ」の活動を支援します。

③ スポーツ施設の整備・活用

P85 戦略1-(2)

- 多様なスポーツ大会・イベントの開催を促進するために、スポーツ活動の拠点となる蘇水公園の整備拡充を推進します。
- 利用者が快適にスポーツを楽しむことができるように、八百津町公共施設個別施設計画に基づき、老朽化したスポーツ施設の計画的な改修・維持管理を進めます。
- 気軽にスポーツ施設の利用ができるように、利便性の高い施設の予約方法の検討を進めます。

2-5 地域文化の継承と創造

施策の基本方針

町民が積極的に芸術・文化に携わり、豊かな生活を送ることを目指します。

町民が郷土の文化を理解し、誇りを持ち、郷土の文化が次世代に継承されることを目指します。

現状と課題

- 八百津町文化協会の所属団体に対して、公民館施設の使用料の減免、補助金の給付などの活動支援を行っています。しかし、協会員の高齢化により活動の維持が困難になり、脱会する団体が増えており、組織の活性化が課題となっています。
- 本町の芸術・文化の振興を図るために開催している筑前琵琶演奏会やささゆりコンサートなどは、芸術文化が鑑賞できる貴重な機会となっており、今後も継続して開催する必要があります。
- 連携大学との文化交流事業として、学生によるコンサートの開催や中学生との歌の交流を実施しており、相互の芸術文化の振興を図るうえで今後も継続していくことが重要となります。
- 地域の文化として各種文化財や伝統文化の価値を知り、未来に伝えるため、各地区における文化財の保存・維持管理を行っています。しかし、山車や倉庫などの保存状態を確認できるもの以外は、保存状態が十分確認できていない文化財もあり、定期的な調査が必要となっています。
- 芸術・文化の振興や地域における文化財の継承などを継続しつつ、これまで受け継がれてきた文化の礎を基に新たな文化を創造することが望まれます。

目標指標

基本成果指標	単位	現状値		目標値	
		年度	基準値	R10 (2028)	R14 (2032)
芸術観賞会の参加者数	人	R5	729	750	800
中学校芸術鑑賞会参加者の満足度	%	R5	63.0	70.0	80.0
文化協会の会員数	人	R5	246	250	255

施策の方針

① 芸術・文化活動の促進

- 八百津町文化協会および所属団体の活動を支援し、地域に根付いた芸術・文化活動を継続的に支援します。
- 各種文化団体の活動の成果を発表できる場を提供し、団体の活動意欲を高めるとともに、多くの人に活動内容を知ってもらい、文化活動への関心を高めます。
- 芸術・文化に関わる人々の裾野を広げるために、芸術・文化活動を楽しむ人々の交流機会の提供、新たに活動するグループの発掘・育成を図ります。

② 芸術・文化への参加機会の拡充

- 芸術・文化に触れることができる貴重な機会となっている筑前琵琶演奏会やささゆりコンサートならびに連携大学との文化交流事業を引き続き実施します。
- 文化団体の活動や演奏会などの公演会の情報提供を拡充し、芸術・文化活動に参加できる機会や鑑賞できる機会の周知を図ります。

③ 文化財の保存・活用

P85 戦略1-(2)

- 文化財や伝統文化を保存・継承している団体などの活動を支援して町の文化財や伝統を守るとともに次の世代への継承を図り、郷土に対する誇りと愛着を育みます。
- 文化財や伝統文化について知る・体験する機会を拡充し、本町の文化財や伝統文化の価値を多くの人に周知するとともに、本町のプロモーションにも活用します。
- 町の貴重な文化財の保存を図るために、調査・収集に努めます。